

平成28年度事務事業評価シート(27年度実績)

◎基本情報

事務事業名		なるとビジネスプランコンテスト開催事業		担当部署	企画総務部 戦略企画課	
総合計画体系				根拠法令 計画など		
基本政策(大項目)	1	うきうき活力と魅力あふれるまちづくり		事業期間	開始	平成 27 年度
政策(中項目)	1	豊かで活力あふれまち なると			終期	未定
(小項目)		産業				
施策	1	産業の振興と経営基盤の充実強化				
基本事業	1	地場産業の育成・振興				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 鳴門市において新事業のアイデアを持つ者						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	鳴門市において、地域活性化につながる新事業の創出するため、ビジネスプランコンテストを開催する。						
事業計画	27年度に何を計画していたか	なるとビジネスプランコンテストを開催する。初めに応募希望者を集めて講演会を開催し、2回プランを練り上げる会を開催。事業計画を応募してもらい、その中から書類選考で最終プレゼンに残る者を決定。プレゼン講座を開催後、最終プレゼンを開催して、そこでグランプリを決める。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	単位
		創業者数	0	1	1	1	1	件

◎実施結果(DO)

事業実施内容	27年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	なるとビジネスプランコンテストを開催。事業説明会を経て、2回のビジネスプランの作成講座を開催した。また随時コンテストの宣伝や、プラン提出のためのPR活動、プラン作成支援なども実施した。結果、16件のプランの応募があり、書類審査の結果、6件を最終選考の対象とした。またプレゼンテーション講座の開催やプランのブラッシュアップを経て、最終選考会を、キョーエイ4階で実施。公開でプレゼンテーションを行い、準グランプリ1件、グランプリ1件を選出した。					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
	指標名	26年度実績	27年度実績	28年度目標	29年度目標	30年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 プラン応募者数	0	16	20	20	20	件
	2						
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	創業者数	0.0	1.0	—	—	—	件
	目標達成率(実績/目標)		100.0	—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況			計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	当初予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	800	0	0	0	200	1,000
		決算額	764	0	0	0	0	764
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(6,859千円/人)	臨時職員(2,071千円/人)		総人件費		総事業費	
		1.0	0.0		6,859		7,623	

【事務事業名:なるとビジネスプランコンテスト開催事業】
(千円)

事業費推移	年度	26年度決算	27年度決算	28年度	29年度	30年度
	事業費		764	1,500	1,500	1,500
	うち一般財源		0	0	1,500	1,500
	人件費		6,859	6,859	6,859	6,859
	総事業費		7,623	8,359	8,359	8,359

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった	創業者の創出や第二創業の支援なども実施し、事業としては有効であった。 事務の効率化という点で、さらに向上する余地があると考ええる。
	効率性	B:概ね効率的だった	
②成果に対する評価	指標名	創業者数	
	目標	1	件
	実績	1	件
	評価	A:目標を達成できた	
③総合的な評価		A	
		事業初年度であり、事業の効率化をさらに向上させることができると考える。成果としては目標通り達成できており、十分効果があったと考えている。	

◎今後の方向性(ACTION)

課題	グランプリ・準グランプリ受賞者はもとより、最終選考にのこったプランや、最終選考に残らなかったプランも含めて、事業の実現に向けてフォローしていく必要があり、その部分がまだ手薄となっている。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	2
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	平成28年度	今年度も昨年同様に実施しつつ、プラン応募者のフォローについて、商工政策課と連携しながらすすめていく。			
	平成29年度	28年度の実施状況を見ながら、29年度の内容を検討する。			